

## 6 黄金時代

1940年代から50年代にかけて一世を風靡したロジャース＝ハマースタインの仕事に触発され、50年代60年代のブロードウェイ・ミュージカルは群雄割拠ともいべき様相を呈し、数多くの傑作が生まれた。『マイ・フェア・レディ』(1956)、『ウェスト・サイド物語』(1957)、『ハロー・ドーリー』(1964)、『屋根の上のヴァイオリン弾き』(1964)、『ラ・マンチャの男』(1965)などその多くは映画化され、また今日に至るまでたびたび再演されている。そうした中、かつての『オズの魔法使い』(1939)と同様に映画オリジナルから舞台へと進出し、今や古典としての地位を確立した『雨に唄えば』(1952)や、まずロンドンでのヒットをきっかけにブロードウェイに進出し、その後のロイド＝ウェッバーらへの道を開いたというべき『オリバー！』(1960)など、ミュージカル文化の広がりを示すような例も現れる。こうした50年第60年代を、この授業では「黄金時代」と呼ぶことにする(すでに第3回で扱った『南太平洋』『サウンド・オブ・ミュージック』も、この時代を代表する作品群である)。

その後60年代末になると、ロック・ミュージカルの登場やオフ・ブロードウェイに注目が集まるなどブロードウェイの全盛にも翳りがさすようになり、1971年の『ジーザス・クライスト・スーパースター』に始まるロイド＝ウェッバー作品の隆盛以降は、ロンドンなどヨーロッパ勢力の勢いに押され気味にさえなつて、ミュージカル文化の勢力図は変化していくことになる。

## ◆雨に唄えば (1952年)

ジーン・ケリー、スタンリー・ドーネン共同監督・振付。トーキーの出現によって変貌する1927年のハリウッドを舞台に、映画製作の内幕(悪声のスターが失脚し、美声の一少女が幸運をつかむ等々)が魅力的な音楽や踊りとともに描かれる。主演のジーン・ケリーがどしゃ降りの街角でずぶぬれになって歌い踊るシーンは、クレーン撮影を駆使した画面の躍動感とともに(MGMミュージカル)の数々の名場面の中でも白眉とされる。

## ◆マイ・フェア・レディ (1956年)

アラン・ジェイ・ラーナー作詞・脚本、フレデリック・ロウ作曲によるミュージカル。原作はジョージ・バーナード・ショーの戯曲『ピグマリオン』(1913)。ロンドンの下町に住む花売り娘イライザの言葉を言語学者ヒギンズ教授が矯正し、貴婦人と間違えられるほどにする。「実験」の成功にヒギンズは有頂天になるが、反面、実験台として競馬場や舞踏会につつまわされたイライザのストレスは高まっていく。ブロードウェイの初演ではジュリー・アンドリュースがヒロイン役を務めたが、映画化の際にはオードリー・ヘップバーンが起用された(歌は吹き替え)。

## ◆オリバー！ (1960年)

ディケンズの小説『オリバー・ツイスト』によるミュージカル。作詞・作曲・台本ライオネル・バート。ロンドンで初演以来大ヒットを記録し、1963年にブロードウェイ進出、同年のトニー賞を3部門で獲得した。1968年には人気子役マーク・レスター主演で映画化。その後プロデューサーのキャメロン・マッキントッシュが何度かリバイバルを試みており、とくに1994年と2009年のバージョンは評価が高く、世界的な再評価につながった。舞台は19世紀のロンドン、少年オリバーは孤児院を追われてさまよううちにスリ集団に加わるが仕事に失敗、それが縁となってある貴族に拾われることになる。

## ◆屋根の上のヴァイオリン弾き (1964年)

ジョゼフ・スタイン脚本、ジェルダン・ハーニック作詞、ジェリー・ボック作曲によるミュージカル。プロデューサーはハロルド・プリンス、演出と振付はジェローム・ロビンス。ショーレム・アレイヘムの短編小説を原作とし、宗教対立や差別の中、伝統と現実の間で苦悩する牛乳屋テヴィエを中心に、帝政末期のロシアに暮らすユダヤ人一家の生活を描いている。

## ◆ラ・マンチャの男 (1965年)

セルバンテスの小説『ドン・キホーテ』をもとにしたミュージカル。脚本はデイル・ワッサーマン、音楽はミッチ・リイ。作家セルバンテス自身が獄中でドン・キホーテの劇を演ずるという劇中劇の構成をとり、主役セルバンテス＝ドン・キホーテをはじめ大半の役は二役である。ドン・キホーテを単なる奇人として描かいておらず、現実にも妥協せず理想を追い求めることの大切さを歌う『見果てぬ夢』はヒットした。

年	ロジャース & ハマーstein	ブロードウェイ [ハリウッド]	ロイド・ウエッバーなどヨーロッパ系
1927	ショウボート		
1939		[オズの魔法使い]	
1943	オクラホマ!		
1945	回転木馬		
1946	アニーよ銃をとれ		
1948		キス・ミー・ケイト	
1949	南太平洋		
1950		野郎どもと女たち	
1951	王様と私		
1952		[雨に唄えば]	
1956		マイ・フェア・レディ	
1957		ウエスト・サイド物語	
1959			
1959	サウンド・オブ・ミュージック		
1963			オリバー!
1964		ハロー・ドーリー!	
1964		屋根の上のバイオリン弾き	
1965		ラ・マンチャの男	
1966		キャバレー	
1968		ヘアー	
1970			ジーザス・クライスト・スーパースター
1971			
1971			
1973		ロッキー・ホラー・ショー	
1975		コーラス・ライン	
1975		シカゴ	
1976			エヴィータ
1976			
1977		アニー	
1979		スウィーニー・トッド	
1980		四十二番街	
1980			レ・ミゼラブル
1981		ドリームガールズ	
1981			キャッツ
1983		ラ・カージュ・オ・フォール	
1984			
1986			オペラ座の怪人

96 No. 30 I Could Have Danced All Night

CV: BEN FRANKLIN: You're all time making much too fast, I think the clock is beginning to slow. When I can't run, when the lights are out, you can't get down your feet, and go to bed.

Allegro molto

PIANO

PIANO

97

98

99